

窓口機能強化研修会・農家対応力強化研修会を実施 JA総合事業の機能発揮 目指せ対話力の向上

管理部は8月19日に窓口機能強化研修会を、9月14日に農家対応力強化研修会をそれぞれ平塚市内で開催した。本会で行われている経済事業について概括的かつ実践的に学べる研修会で、県内JA職員、関連会社社員などのべ97名が参加した。

第74回県農協大会決議において、JAグループのめざす姿の実現に向け「持続可能な協同組合としての組織基盤・経営基盤の確立と人づくり」が基本目標に設定された。このことを受け、JA経営の将来を見据え、総合事業における部門間連携、農家対応力強化の課題解決に向けた人材育成メニューと位置づけ、令和4年度より新設し、実施した。本会では初めての取り組みであり、JA総合事業の意義理解とともに、窓口担当職員・渉外担当職員による多品目推進機能発揮が期待される。

当日は県内農業の概要、農産販売・購買事業、営農指導、畜産事業、生活購買事業、資産管理事業について、本会職員を講師役に説明が行われた。参加者は日頃関わることのない事業の説明にも耳

を傾け、熱心にメモを取っていた。終了後は「農家対応に必要な引き出しを増やすことができた」「肥料価格高騰の原因や、JAに求められる機能・役割を認識できた」などの反響があった。また、窓口機能強化研修会の参加者から農家対応力強化研修会を勧められ、参加を決めたJA職員もいたようだ。

事務局を務めた経営管理課は「初めての試みで情報量が多くなってしまったが、今後も継続的に開催していきたい。JAの強みである総合事業の意義理解、そしてJA職員による多品目推進機能の発揮に向け、参加者には職場に持ち帰って水平展開をお願いしたい。」と呼びかけた。



令和3年度JAグループ施設事業優績組合が決定 表彰状授与式は各JA会場にて

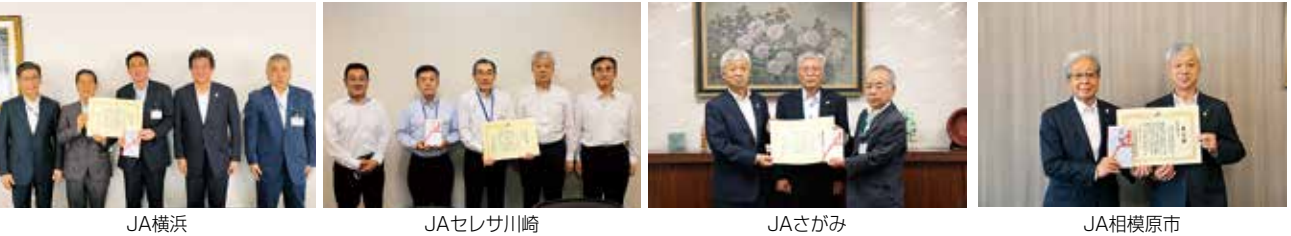
施設部は8月下旬、令和3年度JAグループ施設事業優績組合を決定した。表彰は同年度に優秀な成績をおさめた県内JA・JA子会社やJA支所・支店を対象とするもの。例年は神奈川県内で表彰式典を開催していたが、昨年同様新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から実開催は中止とした。

本年は特別優秀賞や優秀賞、優良賞を受賞した9JA全てにJAグループ神奈川 大川良一会長（JA横浜は平本光男副会長）が直接訪問し、受賞のお祝い、事業に対するお礼を申し述べられ、各JA組合長へ表彰状を手渡した。

主な表彰受賞JAおよび子会社は次のとおり。

施設事業優績表彰	
特別優秀賞	JA横浜（株）JA横浜協同サービス
	JAセレサ川崎（セレサ不動産（株））
	JAさがみ（さがみ協同開発（株））
	JA相模原市（くみあい商事（株））
優秀賞	JA湘南（平塚くみあい商事（株）、いせはろクミアイ産業（株））
	JAあつぎ（厚農商事（株））
優良賞	JAよこすか葉山（（株） コンサルタント協同）
	JAはだの（（株） 協同コンサルトはだの）
	JAかながわ西湘（JAかながわ西湘不動産（株））

同行した根本芳明県本部長は「支所・支店で得られる初期情報がJAグループ施設事業の入り口であり、根幹をなす大切な部分。総合事業としても連携が図れるため、今後とも初期情報を意識した事業展開をお願いしたい」と呼びかけた。



県産いちごの生産技術向上に向け 神奈川県いちご栽培技術研究会を開催

神奈川県いちご組合連合会（事務局：JA全農かながわ 農産総合課）は8月24日、神奈川県農業技術センターで「神奈川県いちご栽培技術研究会」を2年ぶりに開催した。本研究会は、いちご栽培農家の生産技術の向上および、経営の安定を目的としており、生産者52人と県技術センター職員が出席した。

研究会では、法政大学教授石川成寿氏が、病原菌の生態研究からそれらの弱点を突く「イチゴ重要病害の賢い防ぎ方」の講演を行った。イチゴ炭疽病は、糸状菌によって引き起こされ、伝染すると「葉」「葉柄」「ランナー」に黒色の病斑が発生する場合と、クラウン部（茎部）が褐変腐敗し、枯死する場合がある。神奈川県内でもこの病害が報告されており、生産者の経営に多大な影響を及ぼしている。また、土壌から伝染するイチゴ萎黄病を防ぐため、クロピクフローによるマ

ルチ畝内土壌消毒を紹介。慣行法の土壌消毒と比較して土壌中の窒素の無機化が促進され、植物体の窒素吸収量が高くなることにより初期生育が旺盛となること、また収量が多くなる傾向があることを説明した。

また、会場の一角では殺虫殺菌剤や梱包資材、花粉交配用ミツバチの説明資料などが展示され、生産者はメーカー担当者から説明を受けた。

神奈川県いちご組合連合会副会長二宮敏郎氏は「炭疽病のような病害は一度伝染すると一気に広がる。研究会を通して生産者に正しい情報を伝え、生産技術の向上を図るとともに、モチベーションの向上につなげていきたい」と話した。



県産野菜を味わうフリーズドライスープ 「オニオン」「トマト」の2種類で新発売

生活課は10月18日、「神奈川県産玉ねぎを味わうオニオンスープ」「神奈川県産トマトを味わうトマトスープ」を新しく発売した。

フリーズドライスープは他ブランドの商品が生活購買での定番だったが、終売を機に、県産加工品としての開発検討が行われた。また、玉ねぎは規格外品の活用、トマトは値崩れの発生など、消費課題を抱える品目でもあったことからフレーバーの候補となった。

県産野菜のコク・うま味を残しつつ、飲みやすい口当たりになるよう商品開発が行われた。化学調味料不

使用で、組合員の健康にも配慮したのも特徴的である。

開発を担当した生活課職員は「これから肌寒い季節を迎えるにあたり『温活』を気軽に取り入れる商品として、また食事に手をかけられない日のプラス1品としてぜひご利用いただきたい」とコメントする。

1袋1人前入り、いずれも税込参考売価は150円。県内JA農産物直売所を中心に販売していく。



三浦市農協で「JAでんき」取り扱い開始しました！

令和4年9月より三浦市農業協同組合でJAでんきの取り扱いを開始しました。

JAでんきとは、組合員のみなさまが日々ご利用されている電気の料金をお安くするために、JAグループが取り扱う電気メニューです。

石油・LPガスに加えて、お得な「でんき」の安定供給で農家・組合員の営農・生活コストの削減をはかり、

1. カーボンニュートラル・脱炭素社会実現の推進に貢献します。
2. 組合員の農業生産に必要な電気を安価に提供して収益の向上に貢献します。
3. 「JAでんき」も加えて組合員の必要とする総合エネルギー提案を進めます。

三浦市農業協同組合では、営農センター、各事業所、金融窓口、渉外担当者などの推進によりJAでんきを展開していきます。

